

日刊 勤労千葉

87. 12. 28

No. 2729

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

八八年、家族会もがんばるぞ

十二月二十日（日）、年末の忙しい中を多数の参加をいただいて、家族会交流会をもちました。御苦労さまでした。交流会は司会に佐藤さん（幕張）、山田さん（木更津）を選んで、まず林会長の「厳しい情勢の中ではありますが、今日は楽しい時間をともにしましょう」のあいさつを受け、講師・神田香織さんの「マイタウンポリスに気をつける」と中野委員長「分割・民営化で何が変わったのか、四・一以降の国鉄」の講演をうけ、交流会に入りました。交流会はお二人の司会の手際によさもあって、「四・一」をはさんだこの一年間、厳しい闘いをかちきってきた自信が余裕となってなどやかな雰意気で大成功しました。

われわれの正しさが、生きざまが
発揮される情勢が来る

中野委員長長の講演

交 流 会 12/20 ちかとる！



小気味よく世相を斬る神田香織さん

「オイコラ警察の後押して、やりたい放題の自民党、もつと闘えばよかつたと後悔のないように」

神田香織さん

神田さんは「この間、中曾根が言いたい放題、やりたい放題をやったので、人心は荒れはて、国土は荒廃した、国鉄問題、防衛費一歩卒突破、自衛隊の増強、円高、地上げ、政治の暴力の横行」をあげ、「既成野党総屈服の中ですからと起っているのが、勤労千葉、国労である。JRになってサービスは良くなったと言われるが、人べらしさ、殺伐として働きにくい職場、事故はこの一年で二九三件もおき、日本全国が第二の余部鉄橋になっている、感じの悪るいもの第一に警察の検門がなったが、うっかり応じると免許証に非国民・バカ（ママ）と書かれる、オイコラ警察そのものだ」と小気味よく世相を斬っていきます。

「鉄砲よりこわい機密法が通り治安維持法とタイアップしたときどうなるか、他人を信用できなくなり物も言えない恐しさを訴え、今闘うことが問題なのだ」と結ばれました。

中野委員長は「JRになって八か月、変わらないのは膨大な借金だけである。十万人の首が切られ、五年間新採なしの現場で仕事量の強化がすすまじい、全労連が結成されたが、これは自民党を支持する労働組合をめざしており、もはや闘う労働者の範ちゅうにはない、だが、勤労千葉、国労があるかぎり彼らの意図は敗北している。安全に走らせるのが第一の使命なのに、この前の濃霧のときに見られるように、列車をとめるべきなのに、指令室は『なぜ遅れたか』と乗務員を追及するのみで、もうけ・サービスが優先し、安全問題の思想はない、四月一日で『一企業一組合』を粉碎したわれわれは、正しいことを貫くことの厳しさも犠牲の大きさも知っているが、十月十九日の株の大暴落に示されるように戦争しかない情勢を迎えようとしている、それはわれわれの正しさ、生きざまが発揮されつつある情勢だということだ、労働組合がこの情勢を正しく見据えて闘えるかどうかだ」と家族も家庭から出てともに闘ってほしいことを訴えられました。

八八年、家族会もがんばるぞ

その後、自己紹介、交流会に入り全員が発言しました。特に検査・検修十六名中八名が外に出されようとしており、連日点呼拒否闘争で闘いぬいている木更津支部の方から、家族もお父さんを支えてがんばると決意がなされ、又、解雇され事業部でがんばっている成田支部の方からは、「この交流会に出て元気が出ました」等、家族会もこの一年間がんばりぬいた教訓をもとに、なお一層激しい年になるであろう八八年にむかって交流を深め闘いぬくことを誓い合いました。

全組合・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！